

学術

## クリニカル・コース 『成功率を高める歯内療法』

【講義編】—専門医があかす成功の秘訣—

【実習編】—実体顕微鏡でみる歯内療法専門医の目—

今回、神奈川県歯科大学同窓会学術では歯内療法専門医、澤田則宏先生をお招きし、明日からの日常臨床にすぐに役立つ情報を、『講義編』として平成16年10月10日、横浜市中区、神奈川県歯科医師会館にて行い、また更に2週間後の23、24日には特に講演の中で紹介したマイクロスコープに興味をもたれた先生方のために実際に受講生に顕微鏡を貸与するハンズオンコースとして一日中存分に実習をしていただく『実習編』を神奈川県歯科大学実習棟にて企画いたしました。

講義編では一日を通して「排膿がとまらない症例」「フィステルの原因」「最良の根管貼薬剤の選択法」「開かない根管への対処法」「ステップの解消法」「穿孔部封鎖法」「難治症例への対応」などの日常臨床で遭遇する機会の多い問題についてピックアップした充実した内容で、終了後の受講者へのアンケートにも「大変参考になり、明日から使える」と大盛況で来年も企画して欲しいとの声が多く、実際に来年もこの講義編は澤田先生に再度お願いする予定であります。

その2週間後に企画した『実習編』では両日も先着順の定員を超える申込があり、最終的には

お断りする必要がありまして同窓会会員の方にはご迷惑をお掛けしました。当日の午前中に講義とハンドリングの練習、午後は各人に一台ずつ用意された顕微鏡とモニターを思う存分使用していただき、「上顎6番の第4根管の明示」や「破折リーマーの除去」、「顕微鏡下での逆根管充填」を実習時間一杯体験した後で、受講生には澤田先生から修了証が手渡され、今までの根管治療が手探り状態であったことを痛感しながら、実際に明るい視野の中で目で見て確認しながら治療するマイクロスコープの素晴らしい世界を堪能していただきました。当日、器材を貸与していただきました東京歯材社、白水貿易、カールツァイス、マニー、オサダ電気工業、名南歯科貿易、ヨシダ（敬称略、順不同）には同窓会学術一同感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。

最後になりましたが、都合3日間もお忙しい中を情熱的な講義と実習を行ってくださった澤田則宏先生、また実習をお手伝いいただいた澤田デンタルオフィスの田中利典先生には改めて謝辞を述べたいと思います。

同窓会学術 三橋 晃



実習編 1日目受講生と澤田則宏先生



実習編 2日目受講生と

## 学術

『補綴治療における“Longevity”永続性の実現  
—咬合の安定と精度の維持—』 藤本順平先生

平成16年11月7日（日）、横浜市中区・横浜市教育会館において本年度最後の学術講演会を開催いたしました。東京都開業、藤本研修会主宰の藤本順平先生をお招きし、『補綴治療における“Longevity”永続性の実現—咬合の安定と精度の維持—』のテーマでご講演を頂きました。

当日、神奈川歯科大学同窓会会員はもちろん、本学学生、他大学出身者、技工士、衛生士が多く受講され、我々スタッフも含めると約150名の出席者で盛況の内に始まりました。

講演のメインテーマは補綴治療において、何故咬合が重要であるかということをおまえ、午前中は高年齢者の歯牙残存率と咬合関係、咬合と歯周病、TMD、矯正治療との関係に関する最近の考え方、天然歯列、矯正された歯列、補綴された歯列から咬合に由来する様々な問題をあげられ咬合診断の重要性や現代咬合論の解説などを様々の文献レビューを交え講義され、これに伴い臨床編として歯科治療における精度の維持するために重要であるすべて形成方法につながるピンレッジやグループなどを含んだ部分被覆冠の歯牙形成法の基礎、歯科

治療での印象採得の精度維持についてや咬合治療での半調節性咬合器の重要性、Bilateral Manipulation法を用いた中心位採得などの解説を、午後は先生の歯科医院での25年に亘る長期follow up症例を通じ、メンテナンス期間で生じた問題を補綴学的にまた歯周組織学的にその原因の考察と対応策を供覧して頂いた。また最後に、科学的根拠のある歯科治療を言われている今日こそ、先生はしっかりとエディターが査読している海外文献を精読することが正しく認識された知識を得ることができると述べられた。

先生には講演において、25年に亘る長期follow up症例を通じ、補綴治療における咬合の意義並びに治療及び技工精度の重要性について明瞭かつ適確にお話頂き、受講生一同が歯科治療における咬合の重要性について理解を深めることができましたことを藤本順平先生に改めて謝辞を述べたいと思います。

同窓会学術 山中 秀起

## 投稿原稿の募集

会員の皆様からの投稿原稿を募集いたします。ジャンルは問いません。エッセー・紀行文・同窓会に対するご意見、ご批判、何でも結構です。

よりよい広報とする為に皆様のご協力をお願いいたします。  
文字数等詳細につきましては、広報担当小篠（おざさ）まで、お問い合わせ下さい。